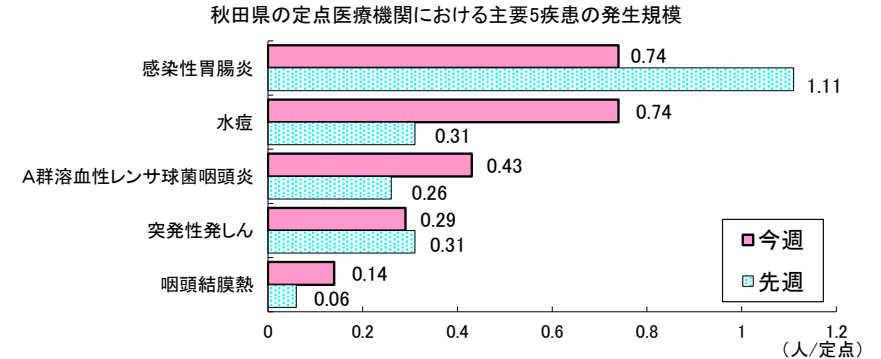




【第48週の発生動向】

< 定点把握対象疾患(週報)・前週比 >

1. 感染性胃腸炎は、県全体で33%減少しています。保健所別では、大館、北秋田、秋田中央、横手で増加、秋田市、能代、大仙、湯沢で減少しています。
2. 水痘は、県全体で2.4倍に増加しています。保健所別では、北秋田、秋田中央、大仙で増加、由利本荘と同規模、秋田市、大館で減少しています。
3. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で1.7倍に増加しています。保健所別では、秋田中央、大仙、横手で増加、秋田市、大館で同規模、由利本荘、湯沢で減少しています。



発生報告

< 五類定点対象疾患(週報) >

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢					
	第47週	第48週	増減	第47週	第48週	増減	第47週	第48週	増減	第47週	第48週	増減	第47週	第48週	増減	第47週	第48週	増減	第47週	第48週	増減	第47週	第48週	増減	第47週	第48週	増減						
RSウイルス感染症																																	
インフルエンザ																																	
咽頭結膜熱	0.06	0.14	↗	0.14	0.57	↗												0.25		↘	0.25		↗										
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.26	0.43	↗	0.29	0.29		0.25	0.25								0.75	1.25	↗	0.25		↘		1.50	↗		0.33	↗	0.50		↘			
感染性胃腸炎	1.11	0.74	↘	2.29	1.57	↘		0.75	↗		0.50	↗	1.33	0.33	↘	0.75	1.25	↗				1.00		↘	0.33	0.67	↗	2.75	0.75	↘			
水痘	0.31	0.74	↗	0.29	0.14	↘	1.75	0.75	↘	0.50	6.50	↗					1.50	↗	0.25	0.25			0.50	↗									
手足口病	0.03		↘																			0.25		↘									
伝染性紅斑		0.03	↗					0.25	↗																								
突発性発しん	0.31	0.29	↘	0.43	0.71	↗	0.50	0.25	↘	1.00	0.50	↘				0.25	0.25		0.25	0.25								0.50	0.25	↘			
ヘルパンギーナ	0.03		↘																			0.25		↘									
流行性耳下腺炎																																	
川崎病		0.03	↗																							0.33	↗						
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*											*	*				
流行性角結膜炎	0.14	0.14			0.33	↗				*	*		*	*		*	*					1.00		↘				*	*				
細菌性髄膜炎																*	*																
無菌性髄膜炎																*	*																
マイコプラズマ肺炎																*	*																
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*																
感染性胃腸炎 (ロタウイルスによるもの)																*	*																

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。  
「\*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>  
 ・二類感染症の結核が能代保健所管内から1人、報告されました。  
 ・三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症が由利本荘保健所管内から1人、報告されました。  
 ・四類感染症のレジオネラ症が能代保健所管内から1人、報告されました。  
 ・五類感染症の侵襲性肺炎球菌感染症が横手保健所管内から1人、報告されました。  
 ・指定感染症の新型コロナウイルス感染症が秋田市保健所管内から13人、秋田中央保健所管内から2人、大仙保健所管内から1人、報告されました。

<全数把握対象疾患> (人)

類型	疾患名	1週-47週		48週
		全国	秋田	秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	15268	82	1
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
三類	コレラ	1		
	細菌性赤痢	60		
	腸管出血性大腸菌感染症	2906	97	1
四類	腸チフス	21		
	パラチフス	7		
	E型肝炎	396	2	
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	114		
	エキノкокクス症	19		
	黄熱			
	オウム病	5		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	15		
	キャサナル森林病			
	Q熱			
	狂犬病	1		
	コクシジオイデス症	4		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症	1		
	重症熱性血小板減少症候群	73		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
	ダニ媒介脳炎			
炭疽				

(人)

類型	疾患名	1週-47週		48週
		全国	秋田	秋田
四類	チクングニア熱	3		
	つつが虫病	189	8	
	デング熱	42		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	406		
	日本脳炎	5		
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症	2		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ポツリヌス症	4		
	マラリア	20		
野兔病				
ライム病	26			
五類	リッサウイルス感染症			
	リフトバレー熱			
	類鼻疽			
	レジオネラ症	1891	12	1
	レプトスピラ症	16		
	ロッキー山紅斑熱			
	アメーバ赤痢	549		
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	222	2	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1660	16	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	29		
急性脳炎	451	4		
クリプトスポリジウム症	6			
クロイツフェルト・ヤコブ病	130	2		
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	678	4		
後天性免疫不全症候群	964	2		
ジアルジア症	23			
侵襲性インフルエンザ菌感染症	233			
侵襲性髄膜炎菌感染症	14			
侵襲性肺炎球菌感染症	1469	11	1	
水痘(入院例に限る)	327	8		
先天性風しん症候群	1			
梅毒	5127	75		
播種性クリプトコックス症	139	2		
破傷風	96	1		
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症				
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	120	1		
百日咳	2837	10		
風しん	99			
麻しん	13			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	11			
指定	新型コロナウイルス感染症	74	16	

トピック

<結核について>

室内で過ごすことが多くなる冬季は、閉め切った室内で病原体の密度が高くなり、病原体に感染しやすくなります。特に高齢者福祉施設等の集団生活を行っている場では結核などの感染症が拡がりやすくなるため、注意が必要です。

■県内の発生状況

結核は「感染」しても必ずしも「発病」するわけではなく、加齢、過労、栄養不良や他の病気により体力が落ちて、免疫力が低下した場合に発病しやすくなります。

・感染者(無症状保菌者含む):第48週現在、秋田県における結核の報告数(無症状結核菌保有者及び結核患者)は83人で、昨年同時期の104人よりも少なくなっています。

・患者(発病者):昨年、秋田県内で「新たに」結核を発病した患者は66人で、人口10万人に対する結核罹患率は、岩手県に次いで2番目に低い値となっています(表)。ただし、2020年10月末(第44週)時点、県内の新たに結核を発病した患者は52人で、昨年同時期の44人と比べるとやや増加しています。

■予防のポイント

- ・乳児は、結核に感染すると重症化しやすいため、遅くとも生後1歳までにBCGワクチンを接種しましょう。
- ・症状がなくても、年に一度は職場や地域での健診を受けましょう。
- ・天候や室内の快適性に考慮しながら、換気をこまめに行いましょう。
- ・免疫力が低下しないように、日頃から栄養バランスのよい食事や規則正しい生活を心がけましょう。

表 都道府県別結核罹患率(人口10万対)の順位(2019年)

罹患率の低い5都道府県	都道府県名	罹患率	罹患率の高い5都道府県	都道府県名	罹患率
		岩手		6.8	
	秋田	6.8		岐阜	14.6
	福島	6.9		兵庫	14.0
	宮城	7.3		奈良	14.0
	北海道	7.4		京都	13.7

同率の場合は小数点2位以下で順位を決定



**【注意報・警報の発生状況】**

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
水痘	秋田中央(1.50)	北秋田(6.50)

■ 注意報・警報の定義

**【注意報・警報の定義】**

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		